

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）	
A	：十分達成できている
B	：おおむね達成できている
C	：やや不十分である
D	：不十分である

学校名	唐津市立大志小学校
-----	-----------

1 前年度 評価結果の概要	<p>・最終評価では中間評価から向上した項目が3項目あった。中間評価を結果から具体的取組のPDCAサイクルを直し、改善を重ねてきた成果と考える。来年度も適宜見直しと修正をしながら教育活動の充実に努めていきたい。</p> <p>・項目①「学力向上」に関しては来年度も算数科と特別支援教育の2本立てで校内研修に取り組み、学習の見直しや話し合い活動の焦点化など、児童の考えを比較したり考えを深めたりする手立てを講じて授業改善に取り組んでいく。項目④「人権学習への実践、思いやりのある言葉遣い」、項目⑤「いじめへの対応」については、日常の取組（児童の名前のさんづけ、乱暴な言葉遣いへのその都度の指導等）を発信し、いじめと思われる事案等への対応報告をより細やかにするなど継続していく必要がある。</p> <p>・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験活動の充実には保護者や学校運営協議会委員から高い評価を得ている。今後も地域人材の活用を積極的に進め、児童の学びを深め、支援の改善を図っていきたい。</p>
------------------	--

2 学校教育目標	<p>全員力で伸びる学校 『チーム大志』</p> <p>「ふるさとを愛し、自ら学び、心豊かに、たくましく生き抜く児童の育成」</p> <p>『た』くましい体 『い』たわりの心 『し』っかり勉強</p>
----------	--

3 本年度の重点目標	<p>①学力向上 効果的で必然性のある話し合い活動と個々の考えが大切にされる環境づくり</p> <p>②充実した生活 自己肯定感を育む教育活動と体力向上・運動習慣作りの推進</p> <p>③地域連携 地域の「ひと・こと・もの」を活かした学びを通して地域の良さを実感し、守り、発展させる取り組みとキャリア教育の充実</p>
------------	--

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○児童が主体的に学び、互いの考えを大切にできる授業づくり	○「友達の考えを聞いて、自分や友達の下に気づき、よりよい考えをもつことができたか」に肯定的回答をする児童80%以上	・算数科の校内研究に取り組み、理論研修及び教材研究、全体授業研、授業研究会を通して授業改善、話し合い活動の充実を図り、協働的な学びを実現する指導法の改善を進める。	A	・公開授業や校内研究を通して、話し合い活動についての共通実践を行うことができた。「授業中、自分の考えを伝えることができた」について肯定的な回答をした児童は82%で、中間評価よりも9%増加した。「友達の考えを聞いて、自分や友達の考えの下に気づいた」について肯定的な回答をした児童は84%という結果で、中間評価よりも4%減少した。これらの結果から、グループワークなどの児童が話し合う際の視点や話し合いの中身など、来年度の校内研で深めていく必要がある。	A	・授業を参観して児童が落ちついて学習に取り組んでいる様子が見えた。グループでの学習でも打ち解けて、良い雰囲気での意見の交流を行うことができた。低・中・高学年ごとに学習の様子は違い、高学年になるほど落ち着いてしっかりと学習ができているように感じた。来年度も学力向上の授業公開があるようなので、継続して取り組んでいきたい。授業を参観できる機会が多くないので、今後は参観できる機会を増やしていきたい。	
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○自他を尊重することに関するアンケートにおいて、肯定的な回答をする児童85%以上。	・児童会の取組を核にした人権週間や道徳教育実践及び振り返りの実施。 ・道徳教育の授業づくりに関する校内研修等の実施(夏季休業中)。 ・自己肯定感を高める命の授業等の実施。	B	・「ほかほか言葉(思いやりのある言葉)を使っている」に肯定的回答をした児童が、中間評価と比較すると2%上がり、88%となった。人権週間、人権集会を行い、改めて自信をふり返ったり、心温まる時間を共有したりすることができた成果であると言える。しかし、児童の普段の学校での生活の様子からは、友達との会話の中で乱暴な言葉が発せられることが度々ある。今後も、これまで以上に自他を尊重できる児童の育成に努めたい。	B	・児童委員会による人権集会などは、児童に改めて人権について考えさせるよい取り組みである。今後も取り組みを継続してもらいたい。 ・学校で会ったときには、児童から進んで挨拶してくれるので、とても嬉しい。しかし、登下校の際には、こちらから挨拶をしてもなかなか挨拶が返ってこないことがある。今の時代は、地域の人に挨拶をすることは難しいことかもしれないが、地域の人にも挨拶ができるようになってほしい。また、評価項目の中に挨拶に関するものを入れていただきたい。	道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 こころ部
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○いじめについて組織的対応ができていると回答した教員が85%以上。	・「なかよしアンケート」及び「Q-U」アンケートへの取組 ・いじめ対応及び「Q-U」アンケートの結果分析の研修の実施。	A	・引き続き、気になる子の情報共有や「なかよしアンケート」を行うことで、スムーズな対応や指導につなげてきた。「いじめ防止に向けて、児童理解やいじめへの組織的対応に努めている」に肯定的回答をした教員は、中間評価と変わらず100%であった。	A	・学校はいじめ防止や早期発見、組織的対応に努めている。日頃の学校生活の中で一つ一つ丁寧に対応したり、いじめアンケート実施後に児童にしっかりと聞き取りを行ったりしている。保護者への説明をしたり、経過、認知した事案を市教育委員会に報告したりしていることを資料として残すことができている。これらの取り組みを、今後も継続していただきたい。	こころ部
	●○児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標を持っている」生徒について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	・学級活動等で自他のよいところを認め合う活動の定期的な実施。 ・キャリア教育につながる体験活動では、児童に活動の見通しをもたせ、学びの自己評価をさせる。	B	・「先生は、あなたのよいところをほめてくれる」に肯定的回答をした児童は82%と下がった結果となった。職員間で他学年、他クラスの良い行動を報告し合うなど、多くの目で児童のよいところを見つけていきたい。 ・「将来の夢や目標をもっている」に肯定的回答をした児童は、変わらず83%であった。「はたらくプロジェクト」を実施したことは、児童の働くことに対する意欲や興味を高める活動になったと考える。	B	・「はたらくプロジェクト」については、多くの職業の方の話を聞く機会となっており、子どもたちにとってとても有意義な活動となっている。低学年や中学年でも、身近なはたらく人に触れる機会を設定できるとよいと感じる。今後も子どもたちの将来の職業選択に結びつくような機会を、継続して設定してほしい。	こころ部
●健康・体づくり	②「望ましい生活習慣の形成」	②睡眠時間8時間以上・朝食喫食率80%以上の児童回答を目指す。	・メディアに触れる時間のアンケートを取り、その結果を保護者に発信し、時間を減らす意識を高める。 ・起床・就寝時間や朝食喫食状況を記録し、生活習慣を分析できる生活リズムチェックの取組を実施する。	A	・「8時間以上寝ている」に肯定的回答をした児童は79%で、中間評価よりも4%増加した。また、「毎日朝ご飯を食べている」に肯定的回答をした児童は91%であった。起床・就寝時間や朝食喫食状況を記録し、生活リズムを整えることができた。今後も「メディアを考えるデー」の取り組みを推奨したり、内容を工夫したりして家庭との連携を継続していく。	A	・「メディアを考えるデー」の取り組みや保護者アンケートの結果をコミュニティスクール通信で啓発することは、他の家庭の取り組みが分かるとても良い。早寝早起きなどの生活リズムを整えるのは小学校段階で重要だと思うが、核家族も多いため難しい場合もある。今後は家庭との連携を継続していただきたい。	教頭、各部主任
	○体力向上・運動習慣作り	○全校的にスポーツに親しむ活動を設定することで、授業時間のみならず自主的な運動に取り組む雰囲気をつくる。	・マラソン週間や縄跳び大会、スポーツチャレンジを設定し、委員会発表や校内表彰をすることで活動意欲を高める。	A	・「学校は子供の運動習慣づくりに取り組んでいる」に肯定的な回答をした保護者は93%となった。縄跳び記録会やマラソン週間などの取り組みや外遊びの推奨などの成果であると言える。	A	・帰宅後に遊べる場所が少ないこともあるが、放課後に外遊びをする経験が減ってきていると感じる。学校でスポーツチャレンジなどの子どもが目標をもって運動に親しむ活動に取り組んでいることはとても良い。子どもの体力向上や運動能力向上のために今後も継続して取り組んでいきたい。	からだ部
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・金曜日を定時退勤日として設定し、メリハリのある業務を推進する。 ・業務記録簿をもとに振り返る場を設定し、勤務の在り方の改善を行う。 ・長期休業中の研修等を見直し、年休を取得しやすい環境を整える。課業日については、職員本人や家族の状況に応じて年休を取得しやすい協力体制を整える。	A	・各種アンケートのオンライン化や会議等のペーパーレス化などにより、印刷・配布・回収・集計等にかかる時間を削減することができた。 ・職員1人当たりの年休取得平均14日以上の達成は難しかったが、職員同士でフォローできる環境を整えることができた。そのため、職員が家族の対応をしなければならないときでも、安心して年休等を取得することができた。	A	・教材共有やペーパーレス化の推進など業務効率化を目指して努力していると感じる。 ・学校からの情報が「はなまるアプリ」から届くのは便利であり、地域住民として学校の状況が分かっていることが、今後も、積極的に「はなまるアプリ」による情報発信を行っていただきたい。	教頭、各部主任
	○校務の整理や行事の精選に取り組む。業務の効率化を推進する。 ○チーム担任制の推進	○各学年で作成したワークシートなどの共有化を行う。 ○「業務の効率化が図られた」と回答する職員80%以上。 ○チーム担任制の取組に対して肯定的に回答した児童や保護者が80%以上。	・各部長のリーダーシップのもと、各部提案文書の共有化を引き続き推進する。 ・若手育成の観点から、各学年で作成したワークシート等を校務用に保存して教育的財産を共有する。 ・チーム担任制の取組状況について、3年生担任と管理職が定期的な情報共有を行い、取組について随時見直す。	A	どの学年も、学年間のワークシートの共有やデータの共有ができていた。「教材や各部提案文書の共有化を推進し金曜日の定時退勤日を意識して業務の効率化を図っている」に肯定的回答をした職員は100%であった。多くの職員が、効率の良い業務や定時退勤を意識している。 ・1年を通して、3年担任間の話し合いを定期的実施したり、放課後の時間に振り返りをして、共通理解と共通実践に努めた。また、児童や保護者への対応を3人で丁寧に行った。	A	・業務量が多い中、働き方改革に向けて連携して工夫されている。今の先生方はとても大変だと思うが、しっかりと頑張っていたらいい。今後は、先生が心身ともに健康な状態で働ける環境づくりが大切である。 ・チーム担任制については、初めての取り組みで大変だったと思うが、先生方が連携して素晴らしい学年経営ができていたと感じる。今後は、先生方に連携していただき、チーム担任制の取り組みを継続していただきたい。	教頭、3年担任
●特別支援教育の充実	○研修会やグループ授業研を効果的に活用した、個に応じた指導・支援の手立ての充実	○「特別支援教育に関する専門性が向上した」と回答する教員が80%以上。	・特別支援教育に関する職員研修会を実施する。 ・個別の支援に係るケース会議の開催、エリアリーダーの活用、連携機関による効果的支援の共有を図る。	A	・巡回相談を活用したり、療育施設や行政機関の職員を交えての支援会議を複数回開催したりして特別な支援が必要な児童へ適切な支援を行うよう努めた。「研修会などで個別の支援について理解を深め、特別支援教育への専門性向上を図っている」に肯定的回答をした職員は90%であった。	A	・教員相互の授業参観、研究会での情報交換、研修会での指導力向上など、専門性を高める努力をされている。引き続き、児童への支援や指導に力を発揮していただきたい。	特別支援教育CO
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言	
○ふるさとの自然環境・伝統文化への体験活動の充実	◎地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験活動の充実	◎「唐津のよいところを話すことができる」に肯定的回答をする児童が85%以上	・地域人材を活用し、地域の自然環境の豊かさや伝統文化の良さを体感する体験活動を各学年で年間3回以上実施する。	B	・どの学年も「地域のひと・もの・こと」を生かした体験活動を実施することができた。児童は活動を振り返ることで、自分の今後の生活の仕方について考えることができた。「唐津のよいところを話すことができる」に肯定的回答をした児童は81%であった。「学校は、唐津のひと・もの・ことを活用し唐津の自然環境や伝統文化への体験活動を充実させている。」に肯定的回答をした保護者は92%であった。	A	・「地域のひと・もの・こと」を生かした体験活動によく取り組んでいる。外部講師や学校外教育などの体験学習を通して子どもは唐津の良さを知っていくと思う。そのため、今後も取り組みを継続するとともに、見直しを行ってさらにより取り組みをしてもらいたい。	教頭、教務

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<p>・最終評価では、3項目が中間評価よりも高い評価となった。中間評価の結果を振り返り、改善を重ねてきた成果であると考えている。来年度も随時見直しや修正をしながら教育活動の充実に努めていきたい。</p> <p>・項目①「学力向上」に関しては来年度も算数科と特別支援教育の2本立てで校内研修に取り組み、学習の見直しや話し合い活動の焦点化など、児童の考えを比較したり考えを深めたりする手立てを講じて授業改善に取り組んでいく。また、来年度は、唐津市学力向上指定校2年目となるため、研究主任を中心に今年度以上に充実した取り組みを目指す。児童のあいさつについて見直し、児童同士や教師との挨拶だけでなく、地域の方々にもあいさつができる児童を増やしていきたい。</p> <p>・地域の「ひと・もの・こと」を活用した体験活動の充実には保護者や学校運営協議会委員から高い評価をいただいている。今後も地域人材の活用を積極的に進め、児童の学びを深め、支援の充実を図っていきたい。</p>
----------------	--